

農業産出額等 (飼料用米交付金含む) 現状 (H26) 965億円 ⇒ 4年後 (H31) 1,060億円 ⇒ 6年後 (H33) 1,090億円 ⇒ 10年後 (H37) 1,150億円

農業生産量 野菜 (主要11品目) (H26) 9.5万t ⇒ (H31) 11.6万t ⇒ (H33) 12.2万t ⇒ (H37) 13.3万t 果樹 (主要2品目) (H26) 2.12万t ⇒ (H31) 2.45万t ⇒ (H33) 2.47万t ⇒ (H37) 2.52万t
花き (主要3品目) (H26) 2,251万本 ⇒ (H31) 2,655万本 ⇒ (H33) 2,764万本 ⇒ (H37) 3,054万本 畜産 (土佐あかし飼養頭数) (H26) 1,728頭 ⇒ (H31) 2,660頭 ⇒ (H33) 3,100頭 ⇒ (H37) 4,020頭

柱1 生産力の向上と高付加価値化による産地の強化

次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進

- 拡 学び教えあう場の活用による環境制御技術の普及
- 拡 環境制御技術のレベルアップと新技術・省力化技術の研究開発
- 拡 次世代型ハウス等の整備支援
- 地元と協働した企業の農業参入の推進

大規模施設園芸団地

高軒高を中心とする大規模次世代型ハウス

低コスト耐候性等の中規模次世代型ハウス

既存型ハウスへの環境制御技術導入

収量UP!

- ・ 環境制御技術普及員によるサポート
- ・ 学び教えあう場の活用

環境保全型農業の推進

- 拡 IPM技術の普及拡大
- 拡 G A Pの推進
- 拡 有機農業の推進

園芸品目別総合支援

- 拡 野菜 (ナス、ニラ、露地野菜等)
- 特産果樹 (ユズ、文旦)
- 花き (ユリ、トルコギキョウ、グロリオサ)

水田農業の振興

- 県産米のブランド化の推進
- 新 酒米の生産振興
- 新 水田の有望品目への転換

畜産の振興

- 拡 土佐和牛
- 拡 養豚
- 拡 土佐ジロー
- 拡 土佐はちきん地鶏
- 酪農

6次産業化の推進

- 農産物加工の裾野の拡大とステップアップ
- 拡 直販所支援の強化

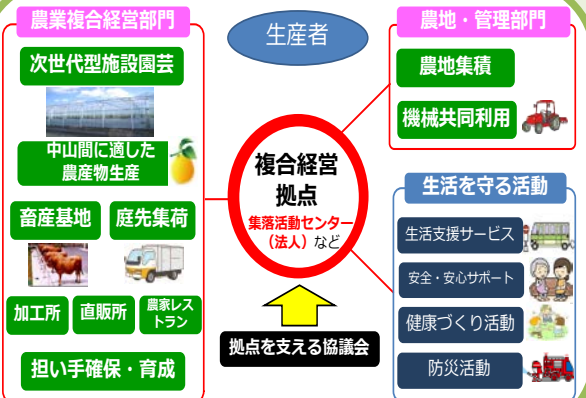
柱2 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築

中山間農業複合経営拠点の整備推進

- 拡 県内への拡大

集落営農の推進

- 拡 集落営農の裾野の拡大
- 拡 こうち型集落営農と法人化へのステップアップ



中山間に適した農産物等の生産

- 拡 土佐茶、薬用作物の振興

日本型直接支払制度の推進

柱5 地域に根差した農業クラスターの形成



さらに、施設園芸団地を核に関連産業を集積させ、より多くの雇用を生み出す!

地域地域で若者が暮らし続ける持続可能な農業を実現!

生産増⇒所得向上⇒担い手増の好循環を拡大再生産へ!

担い手の確保 & 経営体の強化!

柱4 生産を支える担い手の確保・育成

新規就農者の確保・育成

- 拡 産地提案型担い手確保対策の強化
- 拡 雇用就農者の確保対策の強化
- 農業担い手育成センターの充実・強化
- 実践研修・営農定着への支援

農地の確保

- 拡 担い手への農地集積の加速化
- 新 園芸団地の整備促進

園芸団地を作り出す!

家族経営体の強化及び法人経営体の育成

- 拡 家族経営体の経営発展に向けた支援
- 拡 法人経営体への誘導と経営発展への支援
- 新 経営体を支える労働力の確保と省力化の推進

所得の向上!

柱3 流通・販売の支援強化

規模に応じた販路開拓、販売体制の強化

青果物	
基幹流通	拡 集出荷施設の再編統合等
中規模	拡 業務需要の開拓 新 加工用ニーズへの対応
小規模	○ こだわりニッチ野菜・果実の販路開拓
花き	拡 販促・PRの強化

ブランド化の推進

- 拡 販促・PRの強化 (高知家プロモーション、パートナー量販店等)

農産物の輸出の推進

- 新 卸売市場等との連携による販路開拓